

中ノ俣で田植え

棚田学校 開かれる



馬場ひでゆきの活動日誌

No24

5月19日、中ノ俣の角間(かくま)という地域で田植をしてきました。この田植作業は、NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部が「棚田学校」として開講している授業の一つとして実施されたものです。地元の皆さんとともに汗を流し、楽しいひと時を過ごしました。

かみえちご山里ファン倶楽部は、上越市の西部中山間地域(桑取、谷浜、中ノ俣、正善寺地区)で多面的な地域づくり活動に取り組むNPO法人です。同倶楽部は、毎年の中ノ俣の「角間(かくま)」という地域の棚田を利用してコメ作りをしています。

このコメ作りを一般の人々に広く呼びかけたのが「棚田学校」です。地域の人が「先生」になって年間を通して米作りを教えます。「生徒」は、先生から米作りの指導を受けながら、先生と一緒にコメ作りを楽しみ、角間の棚田の景観や里山の文化を守っていくというものです。生徒は自分に割り当てられた「マイ田んぼ」で稲を育てコメを収穫することができるとのことです。

5月19日は本年度2回目の授業の日、約20名が参加して田植作業を実体験しました。田んぼは代掻きがされ、水も



ビビラの線上に苗を植えていきます(左奥が私)。足が埋もれて思うように動かせません(泣)。



ビビラを使って線を引き、苗を植える目印を作ります

張られて苗を植えることができない状態になってました。

まずは先生が田んぼでお手本を示し、その後に生徒が各自の田んぼで作業、ビビラを使って線を引きその線上に等間隔に苗を植えていきました。

私も生徒の一員として参加しました。田植専用の長靴を履き、長靴を足に滑り止め用のゴムで固定させて田んぼに入りました。田んぼは僅か1アールの広さしかなかったのですが、足が埋もれて思い通りに動かせず、苗を植え終わるまでに大分時間がかかってしまいました。

「棚田学校」では、1年を通じて農作業の体験をし、その中で中山間地の農業の課題や、そこで奮闘する農家やNPO法人の活動を知ることが出来ます。三日坊主にならないように頑張ります。

(訂正) 日誌23号の下欄で上越映画鑑賞会につき「鑑賞会」とすべきところ「観賞会」と間違つて表記しました。また、『跳ベイカロスの翼』の主催団体は「上越映画鑑賞会」ではなく「上越よい映画を観る会」という指摘がありましたので、訂正いたします。関係者の皆さまには不快な思いをさせてしまいましたことをお詫び申し上げます

やすづか学園訪問

5月24日は、やすづか学園を訪問しました。

この学園は、旧安塚町が廃校になった菱里小学校を利用する形で不登校の子どもたちの居場所として「やすづか自由学園」として開学し、今は、上越市の支援を受けて社会福祉法人上越市社会福祉協議会が運営しています。

開学当初は全寮制でしたが、平成30年からは上越市内から通学する生徒も受け入れることになりました。現在は上越市内から20名余が通っていて、地域の不登校の子どもたちの居場所として重要な機能を担っています。学園は、自然に恵まれた地域の特性を生かして、地域の方々の協力を得ながら農作業や様々な自然体験活動ができることが特徴です。

校長先生からもお話を聞きました。地域の方々と交流ができて充実した取組ができる一方で、過疎化・高齢化でその協力体制を維持することが年々難しくなりつつあると話されておりました。今後どのような支援方法があるのか、議論を深めていきたいです。



高土地区・高土小学校運動会

5月25日は、地元の運動会に出席しました。小学校と地元住民が一緒になっての実施で子どもたちの頃からずうっと行われてきた伝統のある大会です。小学校の紅白対抗とは別に地区を5つに分けて地区別対抗戦があり、それぞれの地区で代表選手を出して競います。綱引きは毎

かみえちご山クラブ総会

5月26日は、表面で紹介したNPOかみえちご山里ファン倶楽部の総会がくわどり湯ったり村でありました。

同倶楽部は中ノ俣・桑取・谷浜地域を活動領域にして実に多彩な活動を展開してきました。総会ではこの一年間に実施し

年白熱した闘いになっています。私は開会式に出席した後、退席して吉川区に行き、又戻ってきて綱引きの応援をしました。

吉川スポーツフェスタ

5月25日、吉川高等特別支援学校でスポーツフェスタが開催されました。同校には、2月のハッピーカフェ、4月の入学式に参加しています。

会場では昨年まで同学校に勤務されていた先生に声を掛けられてお話ししました。入学の時には人前でしゃべることが苦手だった生徒が共同生活をして行く中で堂々とスピーチができるようになる、こどもが成長していく姿をみれるのが生きが이었다という話を話してくれました。会場には多くの卒業生も来て在校生を応援していました。ステキな学校だとあらためて思いました。

た事業報告と今後の取組について説明がなされました。

令和6年度の事業計画に「Uターン教育の充足」、「地元小学校への様々な関わりを通して、子どもの自己肯定感や郷土愛を育み、Uターンをもたらず動機づけを作る。またこのような取組を通して、学校存続に向けた働きがけに繋げる」がありました。学校存続は過疎化・高齢化地域どこでもの切なる願いです。同倶楽部がどのような取り組みをするのか、今後の活動を見守りたいです。

コーシー Break

23号で紹介した『跳べカロスの翼』は、写真家志望の青年がサーカス団員の写真を撮り続ける中で、サーカスそのものに魅せられて自らも入団し、ピエロとして活躍して団のスターになる、しかし、綱渡りに失敗して転落、20代の若さで死んでしまう、そんなお話でした。

映画で、この青年主人公を演じたのが、フォークソングシンガーのさだまさし。この映画が上越文化会館で上映するというので、ボクは当時の男友達一人を誘って自転車で行きました。上映前にピエロ姿の人が出てきてごあいさつしたのを今でも覚えています。いい映画でした。

二人で観終わって、自転車漕ぎながら同じ道を帰りました。それぞれ興奮し話もしなかった、私はボロボロ涙を流していましたが。

その後ずいぶん経って高校の同窓会で、その友達と再会しました。彼が「いい映画だったよなあ」と一言。友達もあの日のあの場所であの映画を観たことを数十年経ってもずうっと覚えてくれたのです。映画ってホントに素晴らしい。上映した方々に感謝です。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイヤパレス高田式番館2階

電話 025-546-7110
ファックス 025-546-7666
メール kengi-bahahideyuki@wind.oon.ne.jp